

公益財団法人さんりく基金
平成 26 年度第 2 回理事会 議事録

1 開催の日時及び場所

- (1) 日時 平成 27 年 2 月 2 日 (月) 午後 2 時 30 分から午後 3 時 20 分
- (2) 場所 岩手県盛岡市内丸 10 番 1 号 岩手県庁 8 階 8-E 会議室

2 役員の現在数 理事 6 名 監事 2 名

3 出席者

(1) 理事

代表理事	千葉 茂樹	業務執行理事	菊池 哲
理事	植田 眞弘	理事	後藤 均
理事	望月 正彦		

(2) 監事

監事	菊池 芳泉	監事	向井田 敏宏
----	-------	----	--------

(3) 事務局

事務局長	藤田 芳男	事務局次長	千葉 敬仁
事務局員	藤原 杏奈	事務局員	川村 泉

4 欠席者

理事 菅野 信弘

5 議長

代表理事 千葉 茂樹

6 決議事項

第 1 号議案 平成 27 年度事業計画及び収支予算の承認について

第 2 号議案 平成 26 年度第 2 回評議員会の日時及び場所並びに目的である事項について

7 議事の経過

午後 2 時 30 分開会した。

菊池業務執行理事が理事現在数 6 名中、本人出席 5 名により、定款第 37 条に定める定足数を満たしており、本理事会は成立した旨を告げた。また、監事には理事会運営規則第 13 条の規定により、理事会に出席し、意見を頂くこととなっているとの説明があった。続いて、千葉代表理事から、あいさつがあった。

続いて、定款第 39 条第 2 項により、議事録署名人は千葉代表理事、菊池監事、向井田監事であることを確認し、以降の進行は、定款第 36 条の規定により、千葉代表理事が行うこととなった。

報告 (1) 「職務執行の状況について」

議長は、報告を求め、菊池業務執行理事が報告した。

議長が、報告について質問、意見を求めた。

【菊池監事】

職務執行状況報告の期間の確認をしたい。定款では、4 カ月を超える間隔で 2 回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならないと規定があり、本日に理事会をし、決算報告を 5 月に行うとなると、4 か月の間隔が空いていない。これだと決算報告後、さらに 1 回理事会を開催しなければならないと考えるが、対応について検討した方がよいのではないかと。

【藤田事務局長】

関係規定の確認を行った後、適切に対応してまいりたい。

その他発言はなく、議案の審議に入った。

第 1 号議案「平成 27 年度事業計画及び収支予算の承認について」

議長は、第 1 号議案について事務局に説明を求め、藤田事務局長が説明した。

議長が、第 1 号議案について質問、意見を求めた。

【菊池監事】

助成金返還収入について、グループ補助金等との重複分とのことであるが、申請してくる事業者は、並行して両方に申請しているものなのか。

【藤田事務局長】

さんりく基金は、国の制度より先に助成した経緯がある。その後、国の制度ができあがり、徐々にグループ補助金の申請者が増えてきたというところ。商工労働観光部と調整しながら、個別につきあわせて重複した事業者を確認している。なお、現在、事業者の動きは鈍くなってきており、採択に伴う入金の見通しが見つからないということを勘案して予算計上している。

【植田理事】

「調査研究事業」について、募集を出す際に、具体的なアウトプット、アウトカムが期待できるような研究にするようにはっきり伝えてほしい。絵に描いた餅みたいな申請が多く出てくる。内容としては面白くても、現実味がないものは、さんりく基金としては、厳しくはねるべき。

【菊池業務執行理事】

ハードルを高くし、絞るという発想にする。関係部局ともニーズの掘り起こしを確認

しながら、即効性のあるアウトプットを視野に入れ、出口を見据えた調査研究としてもらうように誘導していく。3件という絞り込みをしているので、大学側も考えてもらって、いいものが出てくればよい。一方で、自然科学分野等、継続的にやる必要があるものもあるので、折り合いをつけなければならないとも考えている。

できるだけ産業の現場に繋がり、雇用や地域活性化につながるようにしていく。

【植田理事】

「被災地青少年育成事業」について、上限 50 万円だが、実際のところ 50 万円は妥当か。例えば、上限 30 万円にして件数を増やすというのはいかがか。

【藤田事務局長】

今までの傾向からみると 50 万円全額助成している件数はそれほど多くない。なるべく多くの団体を救いたいという発想であり、15 件という件数で切るのではなく、予算限度額まで採択している。

議長が他に質問、意見を求めたが、特に発言はなく、第 1 号議案の賛否を諮ったところ、全員異議なくこれを可決した。

第 2 号議案「平成 26 年度第 2 回評議員会の日時及び場所並びに目的である事項について」

議長は、第 2 号議案について事務局に説明を求め、藤田事務局長が説明した。

議長が、第 2 号議案について質問、意見を求めたが、特に発言はなく、この賛否を諮ったところ、全員異議なくこれを可決した。

①開催日時 平成 27 年 2 月 12 日（木）午前 11 時

②開催場所 岩手県庁 8 階 8-E 会議室

③議事に付すべき事項

- ・平成 27 年度事業計画及び収支予算の承認について

議長が、その他質問、意見を求めた。

【植田理事】

平成 21 年度まで実施していたイベントに対する助成を一度廃止したのだが、復活について検討してほしい。当時の助成は、1 件あたり 1 千万円超など多額を助成していたが、そこまでは必要ない。例えば、200 万円ぐらいでもいい。

現在は、被災地にただの観光で来るのはまだ抵抗があり、学ぶ防災など、何かのイベントに併せてくるという傾向がある。そのため、各自治体が色々なイベントをやろうとしている。

今ちょうど復興加速化の時期で、ニーズはあるので、さんりく基金にも支援をしてほしい。

【菊池業務執行理事】

事務的には同様の検討を進めている。

沿岸地域で色々なイベントの構想が水面下で進められていることは把握しているが、それが基金としての支援が妥当か吟味する必要がある。国体関連イベントや復興をシンボルとする大小さまざまなイベントがある。

一方で、自治体の取組みに対し、国が支援する動きもあり、さんりく基金の事業とした方がいいのか、市町村事業として助成する方がいいのか、市町村と議論が足りないまま今を迎えている。改めて理事会等でご相談させていただきたい。

【望月理事】

被災地に観光に来るのをためらっている人が多い。冬場になると、三陸地域の観光客が激減する。そういった中で交流人口をいかに増やしていくかが大きな課題である。地域で取組みを進めて行く中で、基金が何らかの役割を果たしてもらえればいい。

三陸鉄道の沿線には、おかげさまで観光客が来てくれているものの、山田・大槌はほとんど来ていない。沿岸全域の地域の振興をどう進めて行くか、基金でうまくサポートしてくれればありがたい。

【菊池業務施行理事】

沿岸全体の交流人口の循環やさらなる拡大ということで、県予算で、山田線の開通を視野に入れた予測調査研究や色々な試みについて予算計上している。これを踏み台にして、地元の人も積極的に交流人口獲得に向けた事業のアイデアを出してもらい、総合的な取り組みになっていけばいいと思っている。

【千葉代表理事】

当法人は、三陸海の博覧会の剰余金が原資の一部になっていることもあり、沿岸地域の小さいイベントを支援、振興していこうというのが目標の一つにあった。

一旦中断したものの、現在の沿岸の状況はそのとおりであり、イベント助成事業復活について検討させていただきたい。

以上をもって議事の全部の審議及び報告等を終了したので、議長は午後 3 時 20 分閉会を宣し、解散した。